

石炭記念館だより

第6号

発行 直方市石炭記念館
〒822-0016 福岡県直方市大字 直方 692-4
TEL 0949-25-2243



筑豊御三家

今回は、麻生太吉、安川敬一郎と共に筑豊御三家の一人で貝島財閥の創始者である貝島太助を紹介します。

「貝島太助翁」は弘化二年(一八四五)一月十一日筑前国直方字古町の円徳寺門前にて父栄三郎、母種子の七人兄弟の長男として生を受けました。

家庭が貧しかったため、九歳の頃から父に伴われて坑内に入り採炭を手伝い家計を助けました。

十一歳の頃からはガラ焼き人夫、野菜売り、遠賀郡吉田村の鍛冶屋の弟子、雲心寺の下男などをした少年時代でした。

慶応三年(一八六七)二三歳のとき弟文兵衛や六太郎、嘉蔵らと力を合わせ山部炭坑(後の三菱新入炭鉱)をはじめ、切貫炭坑(直方町切貫)、馬場山炭坑(遠賀郡馬場山村)を手がけました。

貝島太助翁



明治十八年(一八八五年)四十一歳の時、鞍手郡上大隈村代ノ浦(現宮若市上大隈)にて大之浦(一坑)の開坑に着手した後、明治二十七年(一八九四年)の日清戦争による好況で事業拡大。

明治三十一年(一八九八年)に貝島合資会社を設立。

その後次々と鉱区を拡大、明治四十年(一九〇七年)頃から宮田町磯光、杉坂、満ノ浦、長井鶴、遠賀郡香月、佐賀県厳木など次々に鉱区を拡大していき、明治四十二年(一九〇九年)株式会社となりました。

この間、明治政府の重鎮であった井上馨との交流も深めながら中央情勢を把握しつつ他県に及ぶ拡大を図る一方、公共慈善に寄与、更に私財を投じて私学設立(佐賀県に岩屋小学校、遠賀郡の香月に大辻小学校、地元の宮田町に大之浦、満ノ浦、菅牟田小学校)と教育にも力を注ぎました。

貧しい家庭で育ったため、身をもって教育の大切さを知ったからでしょう。翁の筑豊の復興及び他事業に尽くした業績は大きいものがあります。旧大之浦小学校の校舎の跡は現在、宮若市石炭記念館となっています

大正五年(一九一六年)十一月一日死去

行年七十一歳。

直方市石炭記念館所蔵の「筑豊石炭鉱業組合の常議員会決議録(明治四十四年〜大正二年)」を少し紹介しましょう。
明治四十四年三月二十六日定例常議員会

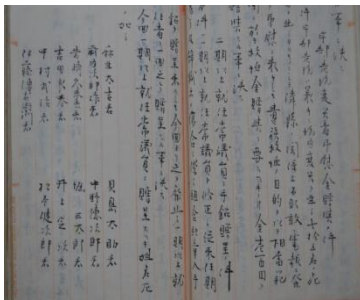
於 直方会議所開会

出席者

麻生太吉、貝島太助、蔵内次郎作、掘三太郎、井上定次、中野徳次郎、伊藤伝衛門、松本健次郎、等々
錚々たる名前が列記されています。
議事内容については、

- 一、直方会議所番人小屋増築の件
- 二、非常用器具管理委員選定の件
- 三、鉄道坑内脱落石炭採取の件

「本件ハ先二戸畑駅構内ニ於テ脱落石炭ヲ盗取セシモノアリ之レヲ検挙セラレ被害者トシテ当組合ノ盗難始末書ヲ提出セラレ
.....」
等の記載が見受けられます。



嘗て(大正七年)貝島本社や住宅購買部は殿町にありました。

この為か、町役場、警察署、病院、卸問屋などもあり貝島中心の町だったとも言えます。今改めて貝島炭鉱と貝島太助翁の歴史を顧みるにより筑豊そして直方の歴史の一端を知るきっかけとなればと思います。一度、宮若市石炭記念館を訪れてください、入口に「創業の碑」が建っています。



お知らせ

企画展

「近代化産業遺産写真展」開催中

三月二十七日(日)まで。

堀川運河散策のお誘い

お問い合わせは当記念館へ

※二月三日(水)は節句、翌四日(木)は立春、と確実に春が近づいています。まもなく十筆が顔を出すことでしょう。